

第2次総合計画施策評価シート《令和5年度分》

施策コード	基本目標	1	【生活環境】いつまでも住み続けたい安全・安心なまち								
1 — 5	施策目標	5	環境対策の推進								
SDGs 連携分野	目標3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する										
	目標6. すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する										
	目標14. 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する										
	目標15. 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する										
	目標17. 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する										
	3 すべての人に 健康と福祉を 		6 安全な水とトイレ を世界中に 	14 海の豊かさ を守ろう 	15 陸の豊かさも 守ろう 	17 パートナーシップで 目標を達成しよう 					

目指すべきまちの姿	生活に身近な環境から地球環境に至るまで、誰もが環境に配慮した取組を実践し、環境の負荷が少ない快適できれいなまちになっています。
-----------	---

●主要施策と概要【PLAN】		この1年間の成果及び反省点【DO】		担当課	評価【CHECK】
(1) 市民・事業者の環境保全活動の促進 ・ 環境教育や啓発活動により、環境保全意識の高揚を図りながら、地域における環境美化運動はもとより、水質浄化運動や省エネルギー運動、アイドリングストップ運動、グリーン購入運動など、市民・事業者の主体的な環境保全活動を促進し、地球環境にやさしいライフスタイルの定着を図ります。		ごみの減量やリサイクル、省エネルギーなど日常生活における環境保全活動を行いました。環境への負荷を減らすためには、市民・事業者・行政の協力が必要不可欠であるため、今後も啓発活動及び協力要請に努めます。		環境課	A
(2) 環境自治体の形成に向けた指針の策定 ・ 本市及び本市教育委員会が管理する施設において行われる事務事業等によって生じる二酸化炭素排出量の削減を目指すため、地球温暖化対策を推進します。		管理する施設において、節電・クールビズ・エコドライブ等の啓発に努めました。さらに令和6年度から公共施設のLED化に取り組む等更なる検討を継続しながら今後も二酸化炭素排出量を数値化し、より一層の削減に努めます。		環境課	A
(3) 環境汚染対策の推進 ・ 河川・地下水の水質汚濁、大気汚染や振動等について、国・県と連携し、調査・監視を継続し、公害防止対策に取り組み、市民の安定した生活を実現します。		市内7箇所の河川の水質検査を実施し、結果をホームページで公表することにより、市民の水質汚濁への意識啓発に努めました。また、国・県・関係団体等と連携し、公害防止対策に努めました。		環境課	A
(4) 外来生物による被害防止の推進 ・ 自然環境・景観の保全のため、さらなる外来生物問題が起こらないように、できることを分かりやすく伝え、対策と理解の関心を高め、一人ひとりの具体的な行動へとつなげる取組を推進します。		外来生物については、国・県及び関係機関と連携し、生息調査や防除活動を定期的に継続して行うことで自然環境を保護しました。また、ホームページ等で市民へ外来生物問題に対する意識啓発に努めました。		環境課	A
(5) 地盤沈下の観測・地下水位の調査 ・ 弥富・十四山地盤沈下観測所の調査を毎月2回実施し、市内5か所の井戸の地下水位を毎月1回調査しています。		地盤沈下や地下水位の調査を毎月実施しました。引き続き、県と連携して調査を実施し、地盤沈下の状況を確認していきます。		環境課	A
(6) 犬の登録・狂犬病予防注射の推進 ・ 犬の飼育者自身が愛犬を守ること、そのことが人の命を守り、社会を守ることにつながることを周知し、予防注射再通知はがきの送付や獣医師会と連携し、登録・予防注射の効果的な啓発に取り組んでいきます。		動物の適正な飼育啓発に努めました。狂犬病予防注射については、ハガキの送付や、広報で周知しました。		環境課	B
(7) 環境に関する取組のための指針の策定 ・ 中長期的に市・市民・事業者が地球規模の環境問題意識を持ち、環境に関する取組が行えるよう環境基本計画を策定します。		人と自然が共生し豊かなまちづくりを目指して環境基本計画の策定について調査を進めます。		環境課	B

●施策目標に対する市民満足度		単位	現状値 (平成29年度)	目指す方向性	中間値 (令和4年度)
環境保全（自然保護・公害防止等）の推進		%	25.0	↗	27.9

●成果指標	単位	現状値	各年度の実績値					目標値 (目指す方向性)	
		(平成29年度)	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和10年度
(3)河川の水質汚染濃度（宝川）（BOD）	mg/L	3.6	12.0	3.6	2.7	5.5	8.2	10.0以下	10.0以下
(6)狂犬病予防注射の接種率	%	79.7	76.7	70.5	72.4	72.6	75.2	85.0	90.0

事業No	実施計画に係る事業名	担当部署	今後の進め方【ACTION】	
(3)	河川水質検査事業	環境課	豊かな自然環境を将来に承継するには、自然の基盤である生物多様性の保全を推進する必要があります。そのため、引き続き市内7箇所の水質検査を行い、結果を監視し、市民への公表及び河川管理者への周知を実施します。	現状維持
(6)	狂犬病予防事業	環境課	狂犬病予防のため、獣医師と連携をとり、登録や予防注射の普及啓発、登録者への注射の案内などを行い、引き続き狂犬病予防注射接種率の向上に努めていきます。	現状維持

施策の今後の方針【ACTION】	良好な環境の中で快適に生活ができるよう、環境保全に対する意識啓発や自然エネルギーの推進、ごみの発生抑制と再使用の推進等、総合的な環境施策を推進することにより、環境にやさしいまちづくりへの取組を進めていきます。
------------------	--

第2次総合計画実施計画事業評価シート《令和5年度分》									
事業No	実施計画に係る事業名					課	グループ	作成日	
(3)	河川水質検査事業					環境課	環境保全グループ	令和6年5月7日	
■総合計画の位置づけ									
基本計画	基本目標	1	【生活環境】いつまでも住み続けたい安全・安心なまち					重点施策	
	施策目標	5	環境対策の推進						
	主要施策	3	環境汚染対策の推進						
	主要事業		河川水質検査事業						
SDGs 連携分野	目標 6. すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する								
	目標14. 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する								
	6安全な水とトイレを世界中に 17パートナーシップで目標を達成しよう								
■事業内容【PLAN】									
事業目的	市内の河川について、定点検査を行い、必要に応じて所管課へ周知することにより、水質の悪化を防ぐことを目的とします。					主な協働・関連団体等			
事業概要	市内の河川7箇所の水質検査を実施し、ホームページで公表し、必要に応じて水路管理者に報告します。					関連する個別計画・根拠法令等	環境基本法		
事業の開始・終了	開始年度	平成18	年度	終了年度	令和10	年度			

■事業費(単位:千円)【DO】										
事業内訳	令和5年度(実績)		令和5年度(計画)		令和6年度(計画)		令和7年度(計画)			
	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)		
	検査委託料	119	検査委託料	180	検査委託料	180	検査委託料	180		
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)			
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)			
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)			
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)			
	合 計	119	合 計	180	合 計	180	合 計	180		
	(補助額)	0	(補助額)	0	(補助額)	0	(補助額)	0		
成果指標			単位	現状値 (平成29年度)	各年度の実績値					目標値(目指す方向性)
					令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度 令和10年度
(3)河川の水質汚染濃度(宝川)(BOD)			mg/L	3.6	12.0	3.6	2.7	5.5	8.2	10.0以下 10.0以下
指標の分析	河川の水質汚染濃度は、天候や気候等で変動しますが、合併浄化槽や下水道の普及等により水質は安定しています。									
■事業の評価【CHECK】										
項目	評価視点				評価の結果					
必要性	・住民のために効果的なものであり、求められているか ・市民ニーズ、社会需要 ・市民生活上必要であるか				市民の健康と生活環境及び自然環境の保全のために、河川の水質検査は必要です。					
効率性	・前年に比べてどのように工夫したのか ・コストの削減、費用対効果 ・執行体制の効率性 ・手段の最適性				限られた予算の中で、市内7箇所の河川を効率的に調査を進めることができました。					
妥当性	・市・住民・団体が誰が実施するのが良いか				市が計画的に水質検査を実施し、河川水質の現状把握に努め、水環境の改善に努める必要があります。					
施策への貢献度	・施策への貢献度 ・目標達成度 ・市民サービスへの効果				河川の水質検査結果をホームページで公表することで、一人ひとりが生活排水対策を意識して生活し、問題点を改善することにより、水環境の向上に繋がります。					
■今後の進め方【ACTION】										
課長意見									方向性	
豊かな自然環境を将来に承継するには、自然の基盤である生物多様性の保全を推進する必要があります。そのため、引き続き市内7箇所の水質検査を行い、結果を監視し、市民への公表及び河川管理者への周知を実施します。									現状維持	

第2次総合計画実施計画事業評価シート《令和5年度分》									
事業No	実施計画に係る事業名					課	グループ	作成日	
(6)	狂犬病予防事業					環境課	環境保全グループ	令和6年5月7日	
■総合計画の位置づけ									
基本計画	基本目標	1	【生活環境】いつまでも住み続けたい安全・安心なまち					重点施策	
	施策目標	5	環境対策の推進						
	主要施策	6	犬の登録・狂犬病予防注射の推進						
	主要事業		狂犬病予防事業						
SDGs 連携分野	目標3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する								
	目標15. 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する								
	目標17. 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する								
	3すべての人に健康と福祉を 守ろう 15陸の豊かさも守ろう 17パートナーシップで目標を達成しよう								
■事業内容【PLAN】									
事業目的	犬の所有者を明らかにすることにより、狂犬病が発生した場合に、迅速かつ的確な対応が可能になります。飼い主の義務として、登録・狂犬病予防注射の推進に努めていきます。					主な協働・関連団体等			
事業概要	獣医師と連携し、飼い犬の登録・予防注射の啓発に取り組んでいきます。					関連する個別計画・根拠法令等	狂犬病予防法		
事業の開始・終了	開始年度	平成18	年度	終了年度	令和10	年度			

■事業費(単位:千円)【DO】											
事業内訳	令和5年度(実績)		令和5年度(計画)		令和6年度(計画)		令和7年度(計画)				
	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)			
	需用費	155	需用費	161	需用費	314	需用費	161			
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)				
	役務費	146	役務費	164	役務費	164	役務費	164			
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)				
	狂犬病予防業務委託料	474	狂犬病予防業務委託料	524	狂犬病予防業務委託料	524	狂犬病予防業務委託料	524			
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)				
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)				
	合 計	775	合 計	849	合 計	1,002	合 計	849			
	(補助額)	0	(補助額)	0	(補助額)	0	(補助額)	0			
成果指標			単位	現状値 (平成29年度)	各年度の実績値					目標値(目指す方向性)	
					令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和10年度
(6) 狂犬病予防注射の接種率			%	79.7	76.7	70.5	72.4	72.6	75.2	85.0	90.0
指標の分析	目標値には届いておりませんが、飼い主の個々の接種により接種率70%以上を維持しております。今後も狂犬病への理解を深め、接種率向上に努めていきます。										
■事業の評価【CHECK】											
項目	評価視点					評価の結果					
必要性	・ 住民のために効果的なものであり、求められているか ・ 市民ニーズ、社会需要 ・ 市民生活上必要であるか					狂犬病予防注射の啓発は犬だけでなく、飼い主を含めた市民の暮らしを守ることにつながります。					
効率性	・ 前年に比べてどのように工夫したのか ・ コストの削減、費用対効果 ・ 執行体制の効率性 ・ 手段の最適性					獣医師と情報を共有しつつ、狂犬病予防注射ハガキを送付することは、飼い主に接種を促すため、効率的です。					
妥当性	・ 市・住民・団体が誰が実施するのが良いか					獣医師との連携による狂犬病予防注射・登録の推進は、市が計画的に行っていく必要があります。					
施策への貢献度	・ 施策への貢献度 ・ 目標達成度 ・ 市民サービスへの効果					狂犬病予防注射接種時に市から送付されたハガキを動物病院に持参することは、ミス防止とともに接種をスムーズに進めるため、効果的です。					
■今後の進め方【ACTION】											
課長意見										方向性	
狂犬病予防のため、獣医師と連携を取り、登録や予防注射の普及啓発、登録者への注射の案内などを行い、引き続き狂犬病予防注射接種率の向上に努めていきます。										現状維持	